



Rotary Weekly



広島空港ロータリークラブ週報

2019年4月3日発行

会長 澤井一徳 / 副会長 三好敏之 / 幹事 鶴田秀樹 / SAA 伊藤 保

事務局 三原市本郷南6丁目3-26番地 三原臨空商工会 2階

TEL 0848-86-0986 / FAX 0848-86-0992 / E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp

例会場 広島エアポートホテル TEL 0848-60-8111

2018-19年度

国際ロータリー・テーマ
BE THE INSPIRATION

インスピレーションになろう



4月 1 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

花見例会

例会

休会

河川清掃

例会

本日のプログラム (4月3日)

花見例会 12:30~13:30

通常通りホテルで食事後に三景園散策

次のプログラム (4月10日)

宗清 征治 様 (紳士服研究)

「ひとはなぜ服を着るのか」

第1145回 2019年3月27日 例会記録

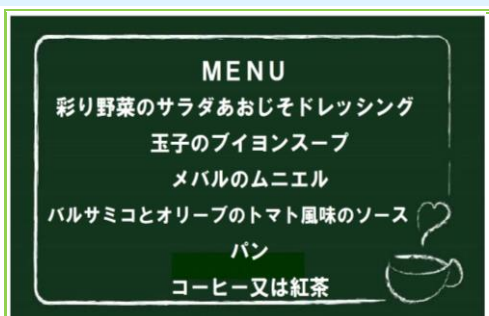
点 鐘 澤井会長

ロータリーソング「奉仕の理想」

出席報告

	会員数 名誉会員	出席者	メイク	欠席 (免除)	出席率
本日 (3/27)	29 1	19	4	4 2	85.19
メイク	灰谷・川本・乗越・大下				
前々回 (3/6)	29 1	17	4	6 2	77.78
メイク	灰谷・河井・三好・川本				

食事時間



会長時間

本日は戸田様に西日本豪雨災害の報告というテーマでお話いただきます。後程宜しくお願いたします。



訃報のお知らせ

我がクラブ創立以来、いつもメーカーキャップにお越し下さり準会員のような、竹原RCの菅義尚様が3月13日にご逝去されました。(満74歳) 菅様は、47年連続出席をされており、11月28日、12月5日、12月12日と続けて3回当クラブにメーカーキャップに来られたのが最後の例会出席という事でした。ご生前のご厚情に深く感謝するとともに、故人のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

4月9日に広島空港RCは創立25周年を迎えます。先人たちのご努力によって、このような和気あいあいとしたクラブが存在していることに感謝しています。25周年の行事として、親睦家族旅行(鳥取日帰り旅行)を計画しており、親睦リーダーの鶴田幸彦さんが考えてくれています。1月に卓話をしていただいた兎ッ兎ワイナリー前岡様の所にもお邪魔したいと考えていますので、皆様ご参加よろしくお願いたします。

幹事報告

《配布物》卓話資料、週報1143, 1144号、

3月理事会報告

《回覧》因島RC50周年記念誌、赤十字新聞

25周年親睦家族旅行出欠表

沼田川クリーンキャンペーン出欠表

産業支援 コーディネーター

戸田 静雄 様



「西日本豪雨災害 再発防止対策結果報告」

昨年、7月に発生した西日本豪雨災害は、三原市におきましても甚大な被害をもたらしました。本会員 29 名の内 10 名の会員の方が被災されたとお聞きしております。被災された本会員の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

西日本豪雨災害 再発防止対策 取組み動機 平成 30 年 7 月西日本豪雨災害に取組んだ理由

昨年 3 月定年を終えて定年後の生き方として漠然と過ごすのではなく①まだ働き続けるのか②家でのおんびり過ごすのか③定年後の生き甲斐のある過ごし方をするのか④趣味を楽しむのか⑤社会に貢献する仕事をするのか等々の定年後の過ごし方がありますが、私自身三原に住んで 55 年間、何事もなく「安全・安心」して暮らしが出来た事に感謝しました。

「今自分は、何が社会に貢献出来るのか」・「三原市に対して何が出来るのか」等を真剣に考えている最中、平成 30 年 7 月 6 日、7 日の西日本豪雨災害（防災情報警戒レベル 5）に出くわし、上北方の知人宅訪問する途中、西消防署・本郷中央病院・ウオンツ・マックスバリュウ・東洋製罐・コココーラ等々の被災状況を間の当りに見ました。

私のやることは微力ながら被災者の皆様の「生の声」を聞き、行政に伝え、二度とこの様な災害が発生しないためにどうすれば良いのか被災者の船木地区・本郷地区・北方地区の現場に向き「現場」「現物」「現実」の 3 現主義で事実関係を確認し被災者の「生の声」の調査を行い、行政は何をやるべきかを考察し、「西日本豪雨災害で起こった事に対してどうすれば良いのか 再発防止対策案」を作成することであると決めました。

7 月 8 日から行政と今日迄継続し交渉したその結果をまとめましたので報告させていただきます。西日本豪雨災害から 8 ヶ月が経過しましたが、「被災者の生活再建」は、まだまだほど遠い状態です。被災者の皆様のお気持ちは、「まだ住む家がない」・「まだ元の生活が取り戻せない」・「雨の天気予報を聞くとトラウマとなり精神的ストレス障害がでる」等々被災者の皆様にとって大きな悩みを抱えておられました。災害は、「何時」・「何処」で起こるかも分かりません。この「7・6、7・7」の出来事を後世に伝えて行く事が又、我々の務めだと思います。

西日本豪雨 沼田川支流決壊原因

被災者の生の声を聞き、又、今後の台風・雨に備えて早急に「三原市」・「県東部事務所」で早急な堆積除去作業を実施する必要があります私は週 1 回～2 回は、「県東部事務所三原支所」に向き話し合いをして早急に「土砂堆積除去」を施工するよう御願いした結果を報告させていただきます。

1. 7 月 6 日から 7 月 7 日にかけて西日本を中心に広範囲で記録され三原市本郷で 490.5 ミリを観測された集中豪雨でした。

気象庁は停滞した梅雨前線に二つの方向からの多量の水蒸気等流れ込んだ複数の要因が重なって起きたと解析された。

2. 棕梨ダムの「緊急放流量の問題」・「サイレン警報問題」。

3. 本流沼田川・沼田川各支川の堆積土砂の問題。等あげられます。

①今回の越水・堤防破壊原因は、本流沼田川の増水が支流をせき止めると言う「バックウオーター現象」が原因とされています。

今後、未然に防ぐ再発防止対策として、本流沼田川・各支流に堆積した「土砂堆積除去」が「最優先重大課題」でした。

②本流の 2 級河川 沼田川土砂堆積除去は、「県東部建設事務所管轄」で 11 月に、ほぼ完了されましたがまだ引き続き継続工事が行われています。

③堆積土砂除去工事に当り、沼田川支流で決壊した菅川 3 カ所・梨和川 2 カ所・仏通寺川、三次川・尾原川で各 1 カ所の計 8 カ所は、上流は、「三原市管轄」・下流は、「県東部事務所管轄」と一つの川を市と県で 2 カ所に仕切られていた事が分かり工事の遅延の原因が分りました。

三原市本郷町 沼田川他支川氾濫 沼田川支流決壊 8 カ所 浸水区域 700ha 状況写真

引用典 写真 アジア航測株式会社



沼田川における検討内容

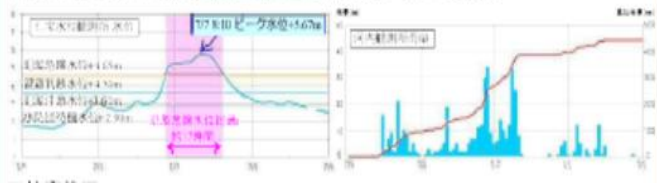
平成31年2月1日広島県東部建設事務所・戸田との打合せ結果

引用出典文書・写真 広島県土木建設局平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害のあり方検討会

(1) 降雨・被害状況等の把握

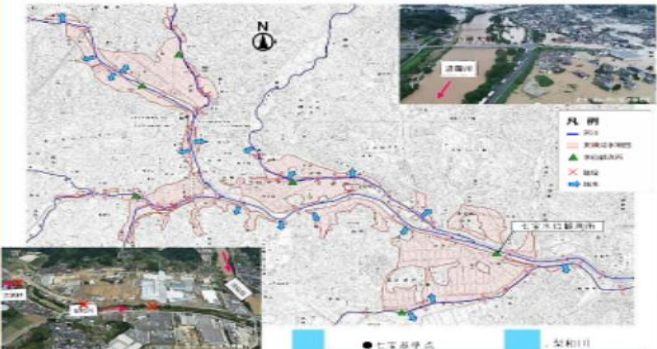
□ 水文量

- 流域平均雨量は昭和元年以降の既往最大259mm/日で、確率規模は1/200年以上
- 七宝・船木水位観測所において観測史上最高水位(七宝:5.67m、船木:7.19m)を記録するとともに、氾濫危険水位超過時間は約17時間に及んだ



□ 被害状況

- 支川の9箇所で破堤が確認され、本川の越水氾濫や内水氾濫等を含めた浸水面積は約700ha、家屋浸水被害は3,824戸*
- 本郷取水場が冠水し、最大3市1町(三原市、尾道市、東広島市、愛媛県上島町)で断水が発生(※1)(※2)。三原市災害対策本部及び被害状況等について(第4報)より算出



□ 沼田川被災流量

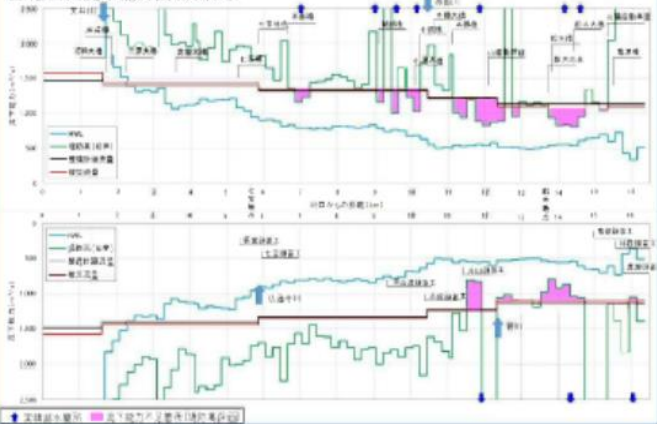
流出計算(貯留関数法)により被災流量を算定

(2) 被害発生要因の分析

□ 各河川 被害発生要因の分析

河川名	浸水被害発生要因の分析	破壊要因
沼田川	→ 流下能力不足による本川越水により浸水が発生したものと推測される	—
天井川	→ 自己洗により越水・破堤が発生したものと推測される	主に越水
仏通寺川	→ 下流部は本川の水位の影響が大きく、上流は流下能力不足により越水・破堤が発生したものと推測される	主に越水
梨和川	→ 本川の水位の影響により越水・破堤が発生したものと推測される	主に越水
菅川	→ 本川の水位の影響により越水・破堤が発生したものと推測される → 旧橋梁による堰上げにより越水が発生したと推測される	主に越水

□ 沼田川流下能力図(洪水時)



(3) 当面の治水対策

被災流量に対し、河川からの越水を防止し、治水安全度の向上を図る

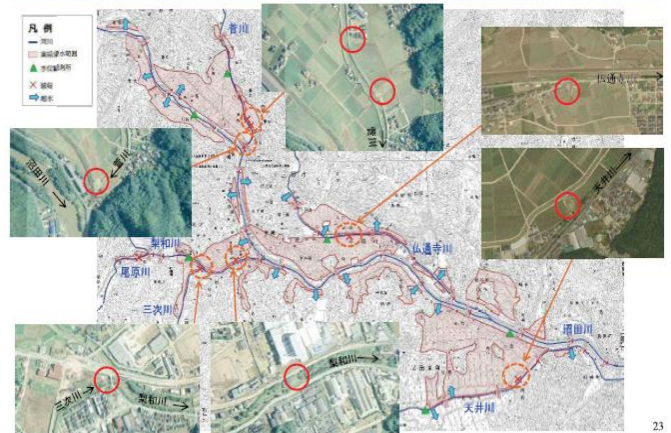
- ✓ 被災流量を流下可能な計画とする
- ✓ 河積を拡大し、流下能力を確保する
- ✓ 破堤箇所の早期復旧と、本川の水位の影響を考慮した対策等を実施する
- ✓ 適切な維持管理により流下能力を確保する

支川破壊要因の分析

平成31年2月1日広島県東部建設事務所・戸田との打合せ結果

引用出典文書・写真 広島県土木建設局平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害のあり方検討会

- ・ 現地状況及び詳細な地形データから破壊要因を分析
- ・ 自己洗及び本川背水影響などにより、長時間にわたって水位が高い状態が続いたため、浸透等の影響の可能性もあるが、主な破壊の要因は「越水」と推定される



被災者住民の「生の声」

西日本豪雨があった7月8日以降、被害状況確認の為、被災者の住む本郷・北方・船木。本郷中学校等の現地に出向き「被災地住民の生の声」を聞きました。

菅川、梨和川、仏通寺川、三次川、尾原川に出向き被災者の各住民は、雨が降る度に「トラウマ」となり、睡眠不足、仕事が手につかない等と日々精神的外傷で悩んでおられました。

市長を始め市職員の皆様は、一生懸命に「不眠不休」で頑張ってくられたにも関わらず、被災者の言葉は、余りにも厳しい冷たい言葉が返ってきました。

1. 被害者に対して三原市長・市議会議員。市職員関係者の顔が見えなかった。
2. 要望や不満を聞いても被災者住民に対して真剣に対応しているという回答・思いが伝わっていない。

①平成30年9月10日

19時～21時 本郷中学校

7月豪雨災害住民説明会北方・南方地区

②平成30年9月14日

19時～21時 本郷小学校

7月豪雨災害 住民説明会 本郷地区

③平成30年9月19日

19時～21時 第五中学校

7月豪雨災害住民説明会沼田東沼田西小泉地区

④平成31年1月24日

19時～21時 本郷生涯学習センター

7月豪雨災害 住民説明会

3. 何を何時までにやるのか市の対応内容・時期が曖昧で全く分らない。
4. 市はこの度の災害を教訓に2度と犠牲者を出さないと、言う危機意識・姿勢を持っているのか見えない。
5. 被災者に寄り添い、被災者が元の生活を一刻も早く取り戻してもらいたい。

等々の生の声を聞く事が出来、被災者住民と行政との信頼関係が薄れ、行政と市民との「絆」が遊離し「一市三町」の合併の意味が無いと言う声が出始めていたように感じを受けました。

沼田川支川越水・堤防決壊再発防止対策申し出・回答内容

被災者の「生の声」。又、台風・大雨に備えて「堆積土砂撤去工事」の早期着手実現の為に、私は週1~2回「県東部事務所三原支所」に出向き申し出を申し続けてきました。

平成31年2月1日 広島県東部建設事務所と打合せ結果、右各地図の如く、堆積量30%以上の箇所を施工する回答を頂きました。

1. 本流の「2級河川」沼田川及び支川8カ所の「土砂堆積除去」時期

- ①沼田川は、「県東部建設事務所管轄」でほぼ11月に完了しましたが引き続き継続中です。
- ②早急に「三原市」・「県東部事務所」で堆積撤去作業の実施をする必要があり梅雨の6月までに対応申し出をしておりました。
- ③土砂堆積除去は、予定より早く「4月、5月」内に実施することになりました。
 - 1) 天井川・仏通寺川・本谷川・沼田川・尾原川・三次川は5月末までに完了予定。
 - 2) 梨和川は4月末までに完了予定。
- ④堆積土砂撤去工事は、沼田川支流で決壊した菅川3カ所・梨和川2カ所・仏通寺川、三次川・尾原川で各1カ所の計8カ所は、上流は、「三原市管轄」・下流は、「県東部事務所管轄」と一つの川を市と県で2カ所に仕切られおり驚きました。
- ⑤例えば「西野川」のように、新宮浦橋から上流は、「三原市管轄」で堆積土砂撤去工事は完了してはいますが、下流は、「県東部事務所管轄」で堆積土砂撤去作業が未だに行われていません。



新宮浦橋から上流は、「三原市管轄」



引用出典文書 広島県土木建設局平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害のあり方検討会

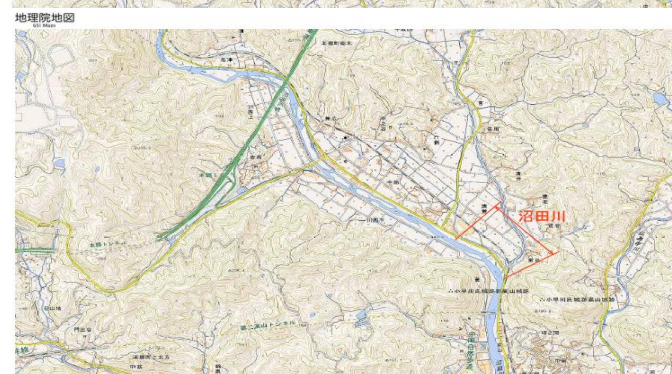
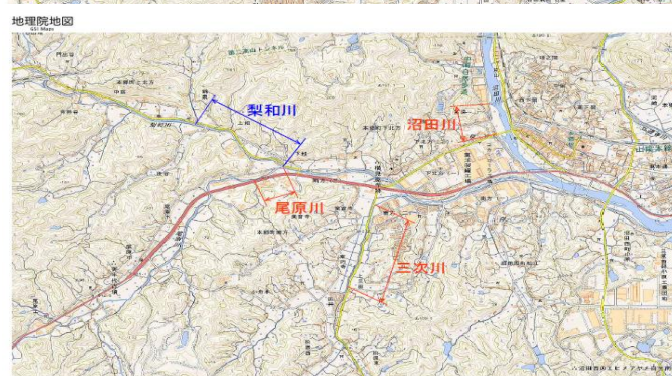
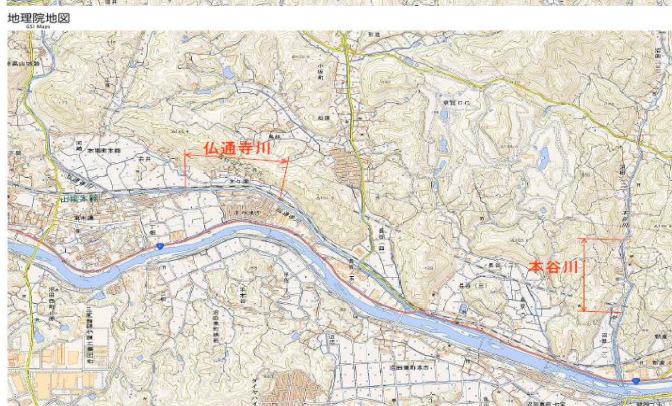
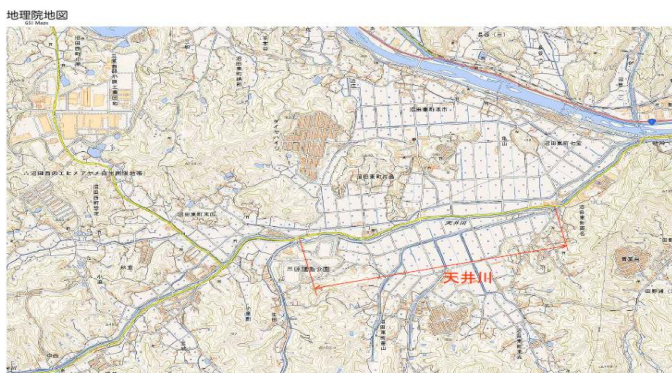


新宮浦橋から下流は、「県東部事務所管轄」

沼田川他8支川 浚渫工事

平成31年2月1日広島県東部建設事務所・戸田との打合せ結果

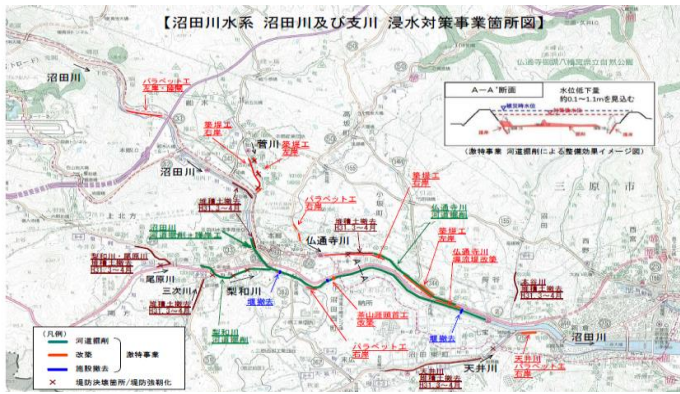
引用出典文書 広島県土木建設局平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害のあり方検討会



沼田川水系 沼田川及び支川 浸水対策事業箇所図

平成 31 年 2 月 22 日 10:15~12:15 広島県東部建設事務所・戸田打合せ

引用出典文書 広島県土木建設局平成 30 年 7 月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害のあり方検討会



決壊堤防 8 支川に「河川監視カメラの設置」要望結果

平成 31 年 2 月 22 日 10:15~12:15 広島県東部建設事務所・戸田打合せ

引用出典写真 広島県土木建設局平成 30 年 7 月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害のあり方検討会

- ①菅川に「河川カメラ設置」3 月 15 日済 写真参照。
- ②他箇所は、随時「激甚災害特別法」の枠で随時設置する。
- ③三原市役所—三原テレに放送(株)と官民一対で「監視カメラ設置」要望を「三原テレビ放送(株)」に依頼済。

菅川に「河川カメラ設置」



沼田川などにおける今後の治水対策

平成 31 年 2 月 22 日 10:15~12:15 広島県東部建設事務所・戸田打合せ

引用出典文書 広島県土木建設局平成 30 年 7 月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害のあり方検討会



対策方針	具体的な取組
対策方針 1: 治水能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 河川改修による治水能力の向上 堤防の強化による治水能力の向上 河川改修と堤防強化の連携による治水能力の向上
対策方針 2: 堤防の強化	<ul style="list-style-type: none"> 河川改修と堤防強化の連携による治水能力の向上 河川改修と堤防強化の連携による治水能力の向上
対策方針 3: 適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 河川改修と堤防強化の連携による治水能力の向上 河川改修と堤防強化の連携による治水能力の向上
対策方針 4: ソフト対策	<ul style="list-style-type: none"> 河川改修と堤防強化の連携による治水能力の向上 河川改修と堤防強化の連携による治水能力の向上

西日本豪雨災害 再発防止対策活動結果

1	平成 30 年 7 月 8 日	三原市議会議長 臨時市議会開催被災地災害状況確認依頼。
2	平成 30 年 7 月 8 日	保健福祉部長 赤ちゃんを助けて下さい。断水による乳児家庭飲み水配布依頼。一人暮らし高齢者飲み水配布依頼。
3	平成 30 年 7 月 10 日	災害対策本部長 緊急災害対策本部会議開催依頼
4	平成 30 年 7 月 13 日	保健福祉部長 乳幼児家庭・高齢者 飲み水配布礼状。
5	平成 30 年 7 月 13 日	三原市水道部 部長 給水礼状。
6	平成 30 年 7 月 17 日	災害対策本部長・災害対策副本部長 断水による佐木島・小佐木島島民に飲み水特別給水配布依頼。(佐木島小学校 校長電話面談)
7	平成 30 年 7 月 18 日	災害対策本部長 緊急 臨時災害対策本部 会議開催依頼。
8	平成 30 年 7 月 20 日	三原市民に「三原テレビ放送・FMみはら」を通して日々放送時間を決めて災害活動状況に対して告知報告実施 勇気ある決断を！市長に申し出。
9	平成 30 年 7 月 31 日	三原テレビ放送 報道お礼。三原市と防災協定を締結し ① 氾濫、越水 8 箇所支川に「監視カメラ設置」。 ② 被害状況を Quick Response に報道するために「ドローン」を採用・保有し飛ばして「生の真の姿をリアルタイムに報道する」ように依頼。
10	平成 30 年 9 月 19 日	三原市災害復旧・復興推進本部本部長 平成 30 年 7 月西日本豪雨災害再発防止対策 申し出。
11	平成 30 年 10 月 04 日	市長に市長室で「西日本豪雨災害再発防止策」について説明。
12	平成 30 年 11 月 29 日	市長応接室で市長・副市長・消防長・危機管理監他説明
13	平成 30 年 12 月 18 日	行政「復旧・復興対策」工事前倒し祈願「黄金だるまの絵」 干支猪 突猛進 亥 の絵寄贈
14	平成 30 年 12 月 27 日	14:30~16:30 広島 YMCA 国際文化センター 「平成 30 年 7 月豪雨災害を踏まえて今後の水害・土砂災害のあり方検討会」 国土交通省 4 名・広島大学 4 名・広島工業大学 1 名 広島県土木建設局 6 名他事務局
15	平成 31 年 1 月 23 日	広島県土木建設局河川課 係長にも申し出。
16	平成 31 年 1 月 29 日	東部建設事務所 支所長 西日本豪雨災害が河川再発防止対策督促。
17	平成 31 年 1 月 30 日	東部建設事務所 支所長 西日本豪雨災害 ダム再発防止対策督促
18	平成 31 年 2 月 01 日	沼田川他 8 支川 浸水工事打合せ 東部建設事務所 維持課 主任。
19	平成 31 年 2 月 22 日	沼田川水系・浸水事業打合せ 東部建設事務所 業務調整課主査。
20	平成 31 年 3 月 08 日	三原市教育委員会 教育部長 文科省派遣 高校生ボランティア活動の件。
21	平成 31 年 3 月 08 日	三原市消防本部 消防長 ドローン採用の件。
22	平成 31 年 3 月 11 日	三原市水道部 部長 断水問題について再発防止対策の件。
23	平成 31 年 3 月 11 日	三原市危機管理監 再発防止対策フォローの件。
24	平成 31 年 3 月 13 日	三原市農林整備課 課長 たぬきハザードマップ作成の件。

フォロー現在も継続中

平成 30 年 12 月 18 日行政「復旧・復興対策」工事前倒し祈願 「黄金だるまの絵」寄贈・干支猪突猛進亥の絵寄贈

引用出典 記事写真 中国新聞平成 30 年 12 月 27 日 木曜日



最後に、「西日本豪雨災害」について要望・ご意見がありましたら行政に対して「再発防止対策」として反映させて頂ければ良いと思いますので申し出よろしく御願いいたします。ご清聴ありがとうございました。